

平和の大切さ

読谷小学校六年

五寄 千季

私達は今の平和です。戦争の時には出来な

い事が平和な時代では出来ず。それは食

糧が有る事。勉強が出来る事。毎日家族や友

達に会えたり遊べたりする事です。反対に戦

争の時には食糧が無かったり。家族や友

に会えない。さびしい日が続きます。

私は戦争と言えれば沖繩戦といろいろイ

ジシカ思ひつきました。でも先生が

ある一冊の本を読んだ。これを読んだ。そこで

戦争は沖繩だけでなく、在島・長崎を含め

日本全国で多くの被害があった事ばかりま

した。

私達は平和学習に行きました。平和学習

では平和記念資料館に行きました。資料館

では戦争当時の生徒の持ち物などが展示さ

れていました。

平和の礎では戦争で七千人の名

前加数多く刻まれました。平和の礎に刻

まれたい人数は約二十五万人にも上るという  
 です。しかも現在でも毎年毎年刻まれて  
 いる人数が増えているというところでは、敵であ  
 刻まれていられる人の中には、敵であ  
 米軍の名称も刻まれていきます。敵味方関係  
 なく、平和の礎に名前が刻まれてい  
 るともすべし、事だと思いません。  
 この平和学習を通して、私はある一つの疑  
 問を持ちました。それは、いつ沖縄戦が始  
 まったのか？と、という疑問です。

私は、学校で配られた新聞を見ていくと、  
 疑問の答えが見つけられました。沖縄戦が始ま  
 ったのは、一九四五年四月一日でした。しか  
 ち、米軍（アメリカ軍）が一番始めに上陸し  
 た所が、私が住むこの読谷村でした。こので  
 読谷村に上陸した日付も四月一日。沖縄戦が  
 始まる、とすぐには、この読谷村に米軍が上陸し  
 た事に、私は、ショックを受けました。  
 読谷村には、いくつもの、かまると呼ばれ  
 る、おうちがあります。戦争中は、そのかま

の中で米軍に見つかりたいように息を  
めてかくれていたぞうです。その読  
谷村のか  
マの中に「千ヒ千リかマ」  
と「千ヒ千リかマ」  
というかマがあります。千ヒ千リかマ  
は、  
阿くの人か加七くなりぞせいと  
たぞうで  
了。一方シムカマでは英語か  
しやべれ  
る人がいたため、全員無事だ  
たぞうです。  
この少しのちかいで生死が  
分かる戦争の恐  
ろしさを感じました。

私はこの作文をかい  
て、戦争は二度と  
や  
つてはいけ  
ない。平和  
かあたり  
まえ  
と  
いう世界  
を作  
て  
いま  
たい  
です。